

植え込み材について

「着生蘭の栽培に適した鉢を」という目的で開発されたオーキトップ。着生蘭を植えるには土をしません。水苔やバーク（樹皮）チップ、ヤシの実チップなど、ある程度の大きさがあるものを使います。そのため、オーキトップはポールが並んだだけで隙間だらけの鉢になりました。

胡蝶蘭やデンドロビウム、カトレアなどの着生蘭は、本来、根はどこにも埋まっていません。通気性の良いオーキトップに隙間の多い植え込み材で植えることは、着生蘭本来の生態に近い環境を作ってあげられることになります。

チランジアやディスクディア、着生シダなど、蘭以外の着生植物にもオーキトップは最適です。

バークチップやヤシの実チップを使ってオーキトップに植えれば、根がそれらに活着しながら、常に新鮮な空気と触れています。樹木や岩に着生している自然界での状態を再現してあげられます。

ポールのすき間は3mm（全サイズ共通）。
3mm以上の粒であれば、どんな植え込み材でも使えます。

my sticksでは、着生植物以外の植物、つまり「普通は土に植える植物」もたくさん、オーキトップに植えています。理由は、置き場所を確保するためとペットが届かない場所に飾るためにハンギングにするためです。ハンギングポットはたくさん売られていますが、通気性と水やりのしやすさ、見た目の全てを満たしてくれる商品はオーキトップ以外にはなかなかないのです。

植え込み材について



上の写真のうち、「水苔」「バークチップ」「ヤシの実チップ」は、着生植物を植えるのに一般的に用いられる植え込み材です。「多肉植物の土」はもちろん多肉植物を植えるための土ですが、いわゆる「土」っぽいものから「土というより、数種類の小さな石のミックス」タイプまで、様々な商品が売られています。

この中で、「普通は土に植える植物」をオーキトップに植える時に使えるものは、「ヤシの実チップ」と「多肉植物の土」です。「多肉植物の土」では、いわゆる土っぽいものは使えませんが、粒の大きな（中粒以上の）「小さな石のミックス」タイプが使えます。保水性を高めるために「ヤシの実チップ」と「多肉植物の土」を混ぜて使うこともできます。

その他、my sticksで使用している植え込み材には、「ペレット状の培養土」や「ウレタン製の植物用スポンジ」、「服からリサイクルされたポリエステル繊維培地」があります。具体的な商品をお知りになりたい方は、お問い合わせください。

植え込み材が「すぐ乾く」必要がない、例えばシダ植物のような植物も、オーキトップで育てられます。その場合、コースターにたっぷり水が貯まるまで水やりをして半底面給水で育てるのが向いています。この時も、鉢内に空気がたっぷり供給されるオーキトップのメリットが生きてきます。

植え込み材について

植物の健康にいいことづくめのオーキトップですが、既にご自分で育てていた植物を植え替えた際には、ちょっと水やりに注意して下さい。

どの植え込み材もそれまでより早く乾くようになりますので、**今までより頻繁な水やり**が必要となります。

ご自身がどのくらい頻繁に水やりできるのか/したいのかを考慮し、チップの大きさを細かくしたり、バークチップに水苔を混ぜて植えたり、コースターに水を貯めての底面給水を試してみてください。

初心者の方には、「根腐れしない鉢ですよ。」とおすすめるオーキトップですが、既に経験のある方には、「ご自分で、**植え込み材の濡れ加減が思うように調節できる鉢**ですよ。」とおすすめています。

また、「普通は土に植える植物」を育てる際により重要となりますが、ご紹介した植え込み材は「無肥料」のものが多いため、一般的な育て方よりも、**肥料**を「頻回」「長期間」与える必要があります。

置き肥と液体肥料（液肥）を組み合わせるのをおすすめです。肥料のやり過ぎは植物にダメージを与えるので、置き肥は規定量を守り、液肥は薄めに希釈したものを1~2週間に1回から始め、様子を見ながら濃さと頻度を調節していきます。

肥料を与えるのは「植物が成長している時期だけ」ですが、育てる環境によって「いつまで成長しているか」は変わってきます。新しい葉や茎、芽が出ているかを観察して、「成長しているかどうか」を見極めます。